

移住・定住に関する公的サポートについての意識調査

——愛知県の条件不利地域における定住意向——

井 戸 聡

はじめに

本稿は、愛知県内の条件不利地域に区分される2つの地域において、移住・定住に関して自治体が行っている公的サポートに関しての意識調査を行った結果についての考察である。調査の対象としたのは、愛知県北設楽郡の東栄町と設楽町に居住し、2つの自治体が行っている移住・定住に関する公的サポートを利用した方々である。

日本全体が人口減少社会へと移行していくことに対しての危機感が声高になってきているのが昨今の状況ではあるが、地方の条件不利地域では、戦後の高度成長期にすでに人口減少や少子高齢化、限界集落化といった過疎社会問題が顕在化し、長年に渡って頭を悩ませてきた。こういった地方の過疎問題はよく知られており、一般化している社会問題であるともいえるが、長きに渡って問題状況が継続してきているために常態化し、その結果、社会問題としての緊要性に対する認識が薄れてきてしまっているとも言えるかもしれない。

しかしながら、条件不利地域での人口減少問題について、今一度立ち止まって問い直さなければならぬと考えている。理由はいくつか挙げられるが、そのひとつは次のようなものである。すなわち、不可避と予測される今後の全国的な人口減少傾向のなかで、将来的にどのような社会を構想していくかを考える上で、これまでに先行して存在してきた条件不利地域での人口減少社会化について十分に考えておくことが、重要な意義をもつと考えるからである。

全国的な人口減少傾向のなかでも一部の地域では現在も人口が増加しており、愛知県は人口が増加し続けてきた少数派の地域のうちの一つであり、人口

減少に対する火急の危機感が高じてこない状況下にあったといえよう。これを幸いと受け止めるべきではないことは、人口増加地域の自治体の将来人口ビジョンが物語っているところである。現在は人口増加地域であっても、やがては人口減少や超高齢化と向き合わねばならないだろう¹。地方の条件不利地域は日本全体の人口減少状況をひとつの大きな背景として、人口減少社会という今後の全体的で全国的な趨勢とこれが引き起こす難問に最前線で立ち向かわされていると位置づけるべきであって、現在は人口増加状況である地域においても、将来的な動向を考え、来る人口減少時代をどのように乗り越えて地域や社会や人々の生活世界を構想するかを思考する上で、地方の人口減少社会問題を仔細に検討しておくことが望ましいといえるだろう。

現在のひとつの趨勢は以下のようなものとなっている。都市と地方という二元的な図式を見取り図として、地方から流出し都市に集中しやすい人口を地方に還流させ、人口的なバランスを取っていかうとする方向性である。こうした思考法の下で、人口問題に対する現実的な処方箋として、さまざまな主体やレベルで、各種の政策や取組みや運動が実践されたり、また、それらがメディアや政策の議論の場などで取り沙汰されたりしてきている。田園回帰や定年帰農、IターンやUターン、交流人口や関係人口や二地域居住など、さまざまな概念やキーワードで称される都市－地方間の人々の移動が、地方の条件不利地域の人口減少社会化に対する光明のひとつとして捉えられてきた。このような流れのなかで、地方の条件不利地域では、人口減少化への対処方策のひとつとして、移住・定住を促すようにさまざまな形での公的なサポートを行うという傾向が2000年代以降に現れるようになってきた。

以上のような考え方や社会状況を踏まえた上で、こうした移住・定住に関する方策が人々にとってどのように受け止められているのか、移住・定住の意向や地方で生活することの意識とはどのように関連するのかについて探る必要があるのではないかと考えて行ったのが本稿での調査である。

ここでの調査結果が、特定の地域での特性を示すことになるのか、その他の条件不利地域にも共通する要素を示すものであるのかを比較検討できることが望ましい。だが、今回の調査ではそのような検討を行うには限界があることは

予め断っておかなければならない。よって、本稿で提示される調査結果やそこから導出される考察については、部分的で断片的なものにとどまらざるを得ないものとなっている。ただ、まったく同じコンセプトの調査設計となっているわけではないとしても、参照可能な先行研究や比較可能な後続する研究において、他の地域や社会との比較を含めた検証を行うことも視野に入れつつ、今般の調査設計を試みたことは補足として付言しておきたい。

1. 方法

今回の調査では、愛知県内の条件不利地域で比較的条件が似通っていると考えられる2つの地域を調査対象地として選択している。愛知県は名古屋市を中心とした西部の尾張地域と県央の西三河地域に人口集中地域が集まっており、人口増加傾向地域も集中している。これに対して東部の東三河地域は減少傾向にあるが、そのなかでも特に県北東部の奥三河地域に人口減少が著しい地域が存在している傾向がみられる。今般の調査では、奥三河の自治体のなかで、社会条件や自然条件などの似通っている2つの町を取り上げることによって、違いや共通性を見出しやすくなるのではないかと想定した。大都市名古屋や最寄りの地方中心都市である豊橋市や浜松市へのアクセス、また設楽地域の玄関口となる新城市との距離において似たような条件にある一方で、鉄道や近年開通して交通の大動脈となっている新東名高速道路や建設中である三遠南信自動車道の利便性において違いがみられる。人口が3000から4000人台であり²、同じように高度成長期以降の人口減少傾向が続いてきた一方で、近年では東栄町で人口が社会増加する状況が生じているという違いもある。他にも設楽町には高等学校があるが東栄町にはなく、東栄町では伝統文化である花祭りが盛んであるが、設楽町では花祭りは合併した旧津具地区には存在するが、全体的には花祭りと異なった文化的伝統があるなどの違いもある。だが、どちらの町も2000年代以降の最近になって、移住・定住に対する公的サポートについての取り組みを開始し、継続してきている点で共通している。以上のように、全く同じとは言えないものの、似通っている2つの地域について、移住・定住に対する公的

サポートについての受け止められ方を検討の対象とすることは、共通性や相違点を探り、他地域との比較も含めて検討する上で有意義であろうと想定して調査地が選定された。

調査項目については、先行する地方の条件不利地域を対象とした意識調査や、移住・定住に関する意向についての研究などとの比較参照が可能となるようにできる限りの設計を行った。公的サポートについての質問項目の他にも、地域イメージ、居住地域の価値観と居住歴、労働状況と価値観、自己評価と人生に対する価値観、生活に対する価値観と人間関係などの主観的意識と価値観の質問項目を設け、公的サポートについての単純な数量的評価を超えて、移住・定住と地方での暮らしについての人々の意識との関連を探ろうという意図から質問項目が設定されている。

調査概要は以下の通りである。調査時期は2018年10月であり、対象地は愛知県北設楽郡の設楽町・東栄町である。調査対象者は移住・定住の公的サポートの利用者となっている³。調査方法は質問紙調査（郵送法）である。計画票は131票（東栄町）、141票（設楽町）の合計272票であり、有効回収票は65票（49.6%：男性43.5%／女性56.5%）〔東栄町〕、63票（44.7%：男性61.9%／女性38.1%）〔設楽町〕となっている。

2. 結果

移住・定住に関する公的サポートを利用した人々の定住意向について

本稿では、調査データのうち、公的サポートを利用した人々の定住意向についての結果を元に検討を加えることを主な目的としたい。

定住意向と地域に住むことのメリット／デメリット

まず、公的サポートを利用した人々の定住意向を集計結果から確認する。図1は「今後、可能ならば、現在住んでいる地域に住み続けたいと思っている」という質問に対する回答である。

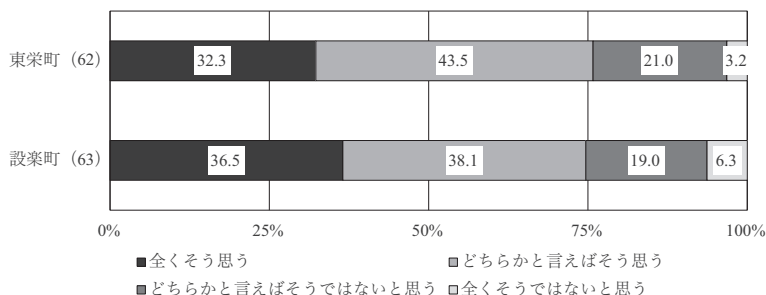


図1 「今後、可能ならば、現在住んでいる地域に住み続けたいと思っている」の回答
注) () 内は回答者数。

定住に肯定的な回答（「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）が東栄町では75.8%、設楽町では74.6%という結果になった。このことから、両町とも移住・定住に関する公的サポートを利用した7割以上の人々が「今後も住み続けたい」という意思をもっていることがわかる。

次に、公的サポートを利用した人々が地域のどのようなことをメリット／デメリットとして捉えているのかを確認しておきたい。図2、図3は、「あなたにとって東栄町／設楽町に住むことのメリットはなんだと思いますか」という質問に対する回答の結果である。

結果から両町とも、「緑、水や空気、星などの自然が豊か」であることをメリットとして捉えている人が最も多いことがわかる。次いで、設楽町では「親・友人などの知り合いが多い」こと、東栄町では、「広い住宅を確保できる」ことをメリットとして捉えている人が多いという結果となった。いずれにしても、両町とも「緑、水や空気、星などの自然が豊か」であることをメリットとして捉える人が8割程度を占めることから、公的サポートを利用した人々は現住地の自然環境をメリットとして肯定的に受け止めているといえるであろう。

続いて、公的サポートを利用した人々がどのようなことを地域のデメリットとして捉えているのか確認していく。以下は、「あなたにとって設楽町／東栄町に住むことのデメリットはなんだと思いますか」という質問の回答をグラフで示したものである（図4、図5）。

東栄町では、「買い物など、日常的な生活に必要な施設・サービスが不足し

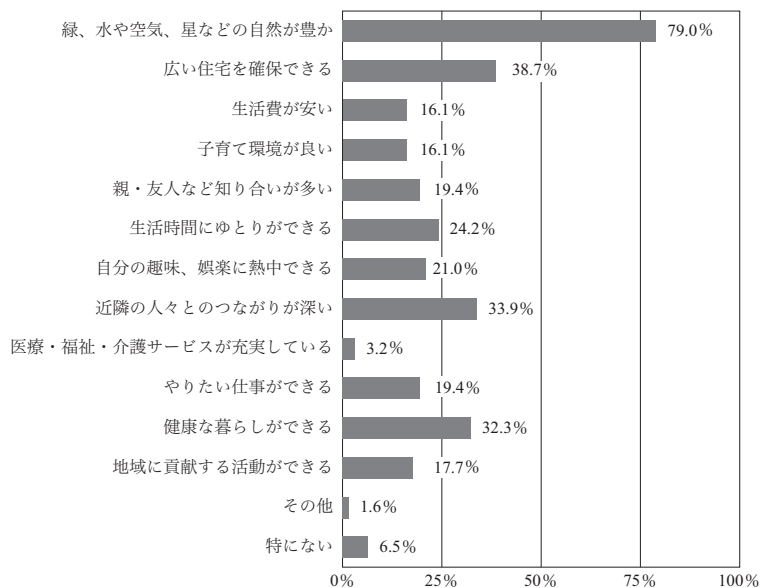


図2 東栄町に住むことのメリット

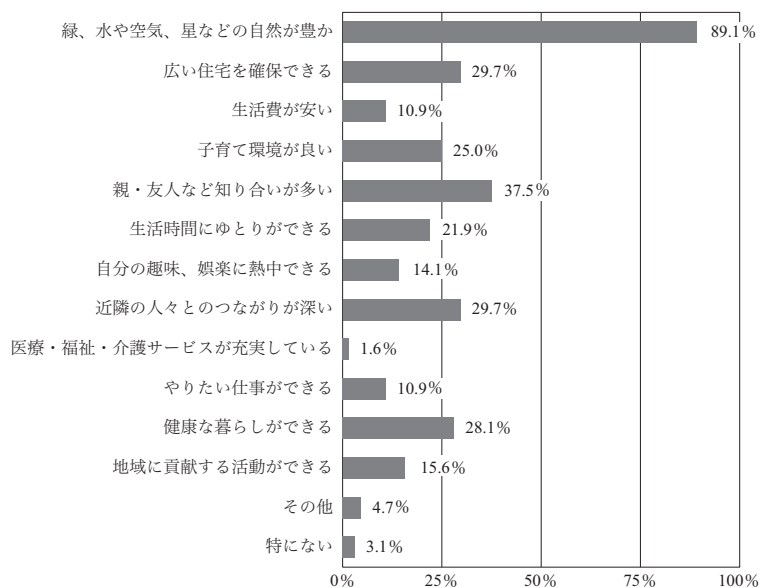


図3 設楽町に住むことのメリット

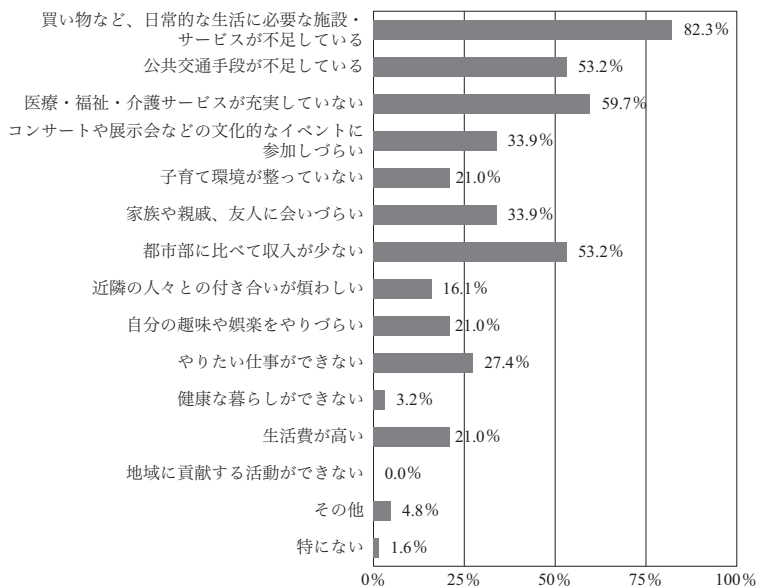


図4 東栄町に住むことのデメリット

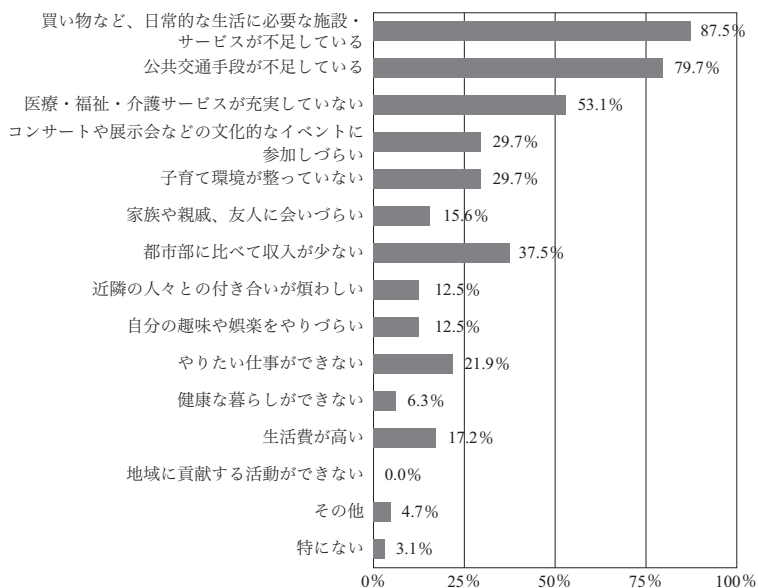


図5 設楽町に住むことのデメリット

ている」ことをデメリットとして捉える人が82.3%と最も多い結果となった。設楽町では、東栄町と同様に「買い物など、日常的な生活に必要な施設・サービスが不足している」ことをデメリットとして捉えている人が87.5%と最も多く、次いで「公共交通手段が不足している」ことをあげる人が79.7%という結果になった。

また、上記の項目以外にデメリットとして捉えている人が過半数を超える項目をみていくと、設楽町では、「医療・福祉・介護サービスが充実していない」(53.1%)ことがあげられる。東栄町でも設楽町と同様に、「医療・福祉・介護サービスが充実していない」(59.7%)ことや「公共交通手段が不足している」(53.2%)ことがあげられる他、「都市部に比べて収入が少ない」(53.2%)ことをデメリットとして捉える人が過半数を超えていることがわかる。このように、移住・定住に関する公的サポートを利用した人々の多くは、施設や公共交通手段のようなインフラや制度の不足や不便を地域に住むことのデメリットとして捉えているといえる。

以上の結果を小括する。まず、移住・定住に関する公的サポートを利用した人々の多くは定住意向をもっていることがわかる。また、地域に住むことのメリットとしては両町とも、「緑、水や空気、星などの自然が豊か」というような自然環境をあげる人が最も多い。さらに、「買い物など、日常的な生活に必要な施設・サービスが不足している」ことや、「医療・福祉・介護サービスが充実していない」こと、「公共交通手段が不足している」ことなどの制度やインフラの不便や不足をデメリットとして捉えている人が多いことがわかった。

では、こういった地域のメリット／デメリットは「今後も、現住地に住み続けたい」というような定住意向とどう関わっているのだろうか。以降では、地域に住むことのメリット／デメリットと定住意向の関連を確認していきたい。

定住意向と地域に住むことのメリット／デメリットの関係

以下の表は、地域に住むことのメリット／デメリットと定住意向をクロスしたものである(表1、表2)。

表1 地域に住むことのメリットと定住意向の関係

		定住意向	
		東栄町	設楽町
地域に住むことの メリット (χ^2 乗検定)	緑、水や空気、星などの自然が豊か	——	——
	広い住宅を確保できる	——	——
	生活費が安い	——	——
	子育て環境が良い	——	——
	親・友人など知り合いが多い	——	——
	生活時間にゆとりができる	——	——
	自分の趣味、娯楽に熱中できる	——	——
	近隣の人々とのつながりが深い	ない<ある **	——
	医療・福祉・介護サービスが 充実している	——	——
	やりたい仕事ができる	——	——
	健康な暮らしができる	ない<ある **	——
	地域に貢献する活動ができる	——	——
	その他	——	——
	特にない	——	——

注)「**」は5%水準で有意。

表2 地域に住むことのデメリットと定住意向の関係

		定住意向	
		東栄町	設楽町
地域に住むことの デメリット (χ^2 乗検定)	買い物など、日常的な生活に必要な 施設・サービスが不足している	——	——
	公共交通手段が不足している	——	——
	医療・福祉・介護サービスが 充実していない	——	ある<ない **
	コンサートや展示会などの 文化的なイベントに参加しづらい	ある<ない **	——
	子育て環境が整っていない	——	——
	家族や親戚、友人に会いづらい	ある<ない **	——
	都市部に比べて収入が少ない	——	ある<ない **
	近隣の人々との付き合いが煩わしい	——	——
	自分の趣味や娯楽をやりづらい	——	——
	やりたい仕事ができない	——	——
	健康な暮らしができない	——	——
	生活費が高い	——	——
	地域に貢献する活動ができない	——	——
	その他	——	——

注)「**」は5%水準で有意。

地域に住むことのメリットと定住意向の関連を確認すると、設楽町では14項目すべてに有意な関連は認められなかった。一方で、東栄町では、「近隣の人々とのつながりが深い」、「健康な暮らしができる」という項目で有意な関連が認められた（表1）。

また、有意な関連が認められたどちらの項目とも定住意向のある人の方がメリットとして捉えているという結果になった。そのため、東栄町においては「近隣の人々とのつながりが深い」ことをメリットとして捉えている人ほど「今後も住み続けたい」という定住意向を持ちやすい傾向にあるといえそうである。また同様に、「健康な暮らしができる」ことをメリットとして捉えている人ほど定住意向を持ちやすいのではないかと考えられる。

次に、地域に住むことのデメリットと定住意向の関連をみると、東栄町では、「コンサートや展示会などの文化的イベントに参加しづらい」、「家族や親戚、友人に会いづらい」という項目に有意な関連が認められた。また、設楽町では「医療・福祉・介護サービスが充実していない」、「都市に比べて収入が少ない」という項目に有意な関連が認められた（表2）。

両町とも有意な関連が認められた項目すべてで、定住意向のない人の方がデメリットとして捉えているという結果になった。そのため、東栄町では、「コンサートや展示会などの文化的イベントに参加しづらい」／「家族や親戚、友人に会いづらい」ことをデメリットとして捉えている人ほど定住意向を持ちにくいといえそうである。また、設楽町では、「医療・福祉・介護サービスが充実していない」／「都市に比べて収入が少ない」ことをデメリットとして捉えている人の方が定住意向を持ちにくいのではないかと考えられる。

さらに、先述の集計結果では、「緑、水や空気、星などの自然が豊か」であることをメリットとして捉えている人が多かったが、クロス集計の結果からは定住意向との関連は確認できなかった。また、デメリットに関しても、「買い物など、日常的な生活に必要な施設・サービスが不足している」ことをあげる人が両町とも最も多かったが、定住意向との関連は確認できなかった。

一方、関連が確認できた項目としては、「近隣の人々とのつながりが深い」、「健康な暮らしができる」、「コンサートや展示会などの文化的イベントに参加

しづらい」、「家族や親戚、友人に会いづらい」というような、周囲の他者との人間関係、健康、趣味や文化、家族・親族・友人など、パーソナルな要素が強く反映する項目が目立つ。さらに、そのなかで「近隣の人々とのつながりが深い」、「家族や親戚、友人に会いづらい」というような人間関係に関する項目が確認できる⁴。では、こういった人間関係が定住意向に強い相関を持つのか、相関分析の結果から次に検討していく。

定住意向と人間関係の満足度

まず、定住意向と人間関係の満足度の相関分析をおこなった。以下の表は、「職場の人間関係」「配偶者・恋人」「友人」「近所の人々」のそれぞれの項目と、それらの全項目の合成変数として「人間関係満足度」としたものに定住意向を掛け合わせた相関分析（ケンドールの順位相関）の結果である。

表3 定住意向と人間関係の満足度の相関

		職場の 人間関係	配偶者 ・ 恋人	友人	近所の 人々	人間関係 満足度
定住意向	東栄町	0.417**	0.166	0.301**	0.330**	0.374**
	設楽町	0.415**	0.371**	0.404**	0.565**	0.555**

注)「**」は1%水準で有意。

設楽町では、定住意向と4つ全ての各人間関係の満足度の項目において有意な関連が確認され、特に、「近所の人々」との関係の満足度に相関がみられた(相関係数0.565)。いずれの項目においても、関係性の満足度が高いほど定住に対して肯定的な回答の割合が高くなることを示している。

東栄町で定住意向と有意な関連が確認できたものは、「職場の人間関係」や「友人」、「近所の人々」の満足度であり、「配偶者・恋人」との関係の満足度には有意な関連は確認できなかった。これは、「配偶者・恋人」(特に配偶者)との関係性は移動によって変化が生じる可能性がその他の人間関係よりも少ないため、という事情からの結果であるという解釈が考えられる。ただ、この解釈が妥当であるのかについての他の方法での検証が必要であり、また、設楽町では同様の結果を読み取ることができなかったこともあり、ここでは正確な判断

はできない。

さらに、この4つの人間関係の項目を合成した「人間関係の満足度」と定住意向には両町とも正の相関が確認でき、特に設楽町では比較的強い相関が確認できる。

この結果から、設楽町では、「職場の人間関係」、「配偶者・恋人」、「友人」のいずれか一つの人間関係の満足度が高い人よりも、複合的な人間関係の満足度が高い人の方が定住意向を持ちやすい傾向にあるといえそうである。また、東栄町でも、「配偶者・恋人」、「友人」、「近所の人々」のいずれか一つの人間関係の満足度が高い人よりも、複合的な人間関係の満足度が高い人の方が定住意向を持ちやすいといえそうである。

定住意向と人間関係の質

最後に、定住意向と人間関係の質に関する質問項目の相関を確認していく。以下は、定住意向と「自分と近い仲間に恵まれ、深い絆を築けていると思う」／「自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う」という質問の相関分析（ケンドールの順位相関）を行った結果である（表4）。

表4 定住意向と人間関係の質の相関

		「自分と近い仲間に恵まれ、 深い絆を築けていると思う」	「自分と異なる世界の人たちと 出会う機会に恵まれ、視野を 広げられていると思う」
定住意向	東栄町	0.403**	0.232**
	設楽町	0.567**	0.330**

注)「**」は1%水準で有意。

両町とも全ての項目に定住意向と有意な関連が認められ、「自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う」という回答より、「自分と近い仲間に恵まれ、深い絆を築けていると思う」という回答の方が定住意向と強い正の相関を持つことがわかった。

ここから、移住・定住に関する公的サポートを受けた人々は異質な他者（＝自分と異なる世界の人）よりも同質な他者（＝自分と近い仲間）との関わりを

持つ方が定住に対してより肯定的に回答する傾向があるといえる。

3. 結論

本稿では、公的サポートを利用した人々の定住意向と地域に住むことのメリット／デメリットの関係、特に人間関係について詳しく確認してきた。これまでの結果をまとめると次のようになる。まず、1. 集計結果から、両町とも7割以上の人が「今後も住み続けたい」という意思を持っており、定住に対して肯定的に捉えている。そして、2. 地域に住むことのメリットとしては、両町ともに「緑、水や空気、星などの自然が豊か」であることをメリットとして捉える人が8割程度を占めることから、公的サポートを利用した人々は現住地の自然環境をメリットとして肯定的に受け止めているといえる。3. 地域に住むことのデメリットは、両町ともに「買い物など、日常的な生活に必要な施設・サービスが不足している」ことや、「医療・福祉・介護サービスが充実していない」こと、「公共交通手段が不足している」ことなどの制度やインフラの不備不足をデメリットとして捉えている人が多い。4. 地域に住むことのメリット／デメリットと定住意向の関係は、「近隣の人々とのつながりが深い」、「健康な暮らしができる」、「コンサートや展示会などの文化的イベントに参加しづらい」、「家族や親戚、友人に会いづらい」というようなパーソナルな要素が強く反映する項目に多く関連が認められた。また、東栄町では特に、人間関係に関する項目に関連が見受けられた。5. 設楽町では、定住意向と人間関係の満足度すべての項目に正の相関があり、特に、「近所の人々」との関係に満足している人ほど定住意向に対して肯定的に回答する割合が高い。6. 東栄町では「職場の人間関係」、「友人」、「近所の人々」との関係の満足度と定住意向に正の相関が確認されたが、「配偶者・恋人」との関係のみ関連は確認できなかった。7. 両町ともに、複合的に人間関係に満足していることと定住意向に相関が確認でき、いずれか一つの人間関係に満足しているよりも、比較的強い相関が表れることが読み取れた。8. 両町とも、定住意向と人間関係の質は正の相関があり、異質な他者よりも同質な他者との関わりを持つ方が定住に対し

てより肯定的な回答を述べる傾向がある。

以上のように、移住・定住に関する公的サポートを利用した人々の定住意向は、パーソナルな要素が強く反映する項目、とりわけ人間関係と関連があるといえそうである。全国的に、移住・定住に関する公的サポートは補助金支給のような経済的支援を行うことが主流とされてきたが、「定住」という観点から考えると、人間関係に関するサポートについて充実させていくことも重要であると考えられる。

さいごに

今回の考察では、定住意向と地域に住むことのメリット／デメリットの関係、特に人間関係に着目して詳しく確認してきた。地域に人々が住まうことに永続性をもたらせる要素は何か、すなわち、地域と人々を結び付け、定住へと導く何らかの要素、換言すれば、地域と人々との「紐帯」とはどのようなものかを考えることは、人口減少社会において、地方の条件不利地域とされる地域に人々が生活世界を構築することを望み、期待するのであれば、欠かすことのできない視点ではないだろうか。人々は生存のための物理的環境や社会資本的環境が整っているからといって、つまりが生存のレベルでの条件があれば、人々はそこに住まい続けるというものではないだろうし、また、生存レベルの条件や環境が整っていないからといって、ただちにより好条件のところへ立ち去っていくというわけでもないだろうということが今回の調査結果から読み取れたことのひとつである。地域の条件不利性、いわば生存のための条件や環境が整っていないという強い認識が確認されたにもかかわらず、この地に住み続けたいと考える人々がかなりの割合で存在するという結果から、不利とされる条件が人々を永続的な居住から遠ざけているとは必ずしもいえないということが示されたといえるだろう。

ではどのような要素が人々をそこに住まい続けるように影響するのであろうか。本稿では特に人間関係について着目し、データから読み取れることを提示してきた。ただし、こうした人間関係とは具体的にはどのような内容のもので

あり、質のものであるのか、ということや、人々の人間関係はどのように築き上げられているのかという時間軸を含めた視点からの内実などについては、ここでのデータからだけでは分からない。また、今回の調査対象は、行政の公的サポートを受けた人々に限られたものであるというデータ上の制約もあるため、公的サポートを受けていない人々を含めた住民全体の傾向とは異なる可能性も視野に入れておかなければならない。

これらの課題や限界も含め、今後の量的、質的、双方からの調査研究によって、批判的な検討を含めたさらなる検証に今般の調査研究の内容が接続されていくことが期待される。

注

- 1 愛知県は戦後一貫して人口増加が続き、2019年10月時点での推計人口と世帯は7,552,873人、3,240,761世帯となっていた。その時点で、人口増加となっているのは7都県（増減率の降順に、東京都、沖縄県、埼玉県、神奈川県、愛知県、滋賀県、千葉県）であり、自然増は沖縄県のみで、他の6都県は自然減・社会増であった。しかし、最近の2020年11月の愛知県の公表によると推計人口は7,541,123人となり、1956年の県調査開始以来、初めての人口減に転じた（愛知県 2020）。2020年頃に県人口のピークを迎え、以降、減少に転じると将来推計されたとおりに進むとすれば、今後は減少の一途をたどるということになる（愛知県 2015）。
- 2 2020年の2つの町の人口は、東栄町が3,065人（10月末日時点）、設楽町が4,629人（11月1日時点）である。
- 3 2つの町における公的サポートの内容は次のものである。東栄町においては「空き家情報活用制度」「空き家バンク」「空き家活用支援補助金」「とうえいの木住宅建設定住支援事業推進奨励金」「賃貸後譲渡型住宅整備事業」「移住者通勤支援補助金」「若者定住奨励金」「地域おこし協力隊」であり、設楽町においては「設楽町若者定住促進住宅補助金」「住宅新築奨励」「設楽町空き家・空店舗改修事業補助金」「設楽町空き家・空店舗家財道具等処分補助金」「宅地分譲（坪1万円）」「起業チャレンジ支援事業補助」「新規就業・就職奨励」「就農支援資金助成」「後継者育成資金貸付」「設楽町無料職業紹介所」「移住定住推進室」「地域おこし協力隊」である。
- 4 期待度数が5未満のセルが、全体のセルの20%以上に達していたため、今回の分析では使用していないが、設楽町では、「近隣の人々とのつながりが深い」（地域のメリット）、「家族や親戚、友人に会いづらい」や「近隣の人々との付き合いが煩わしい」（地域のデメリット）の項目も定住意向と関連がある可能性はあるといえる。

文献

愛知県、2015、「資料 2 愛知県の人口動向」(2020年11月29日取得、<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/51782.pdf>)

愛知県、2020、「愛知県の人口 愛知県人口動向調査結果 年報(2020年)」(2020年11月29日取得、<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/0000077332.html>)